

## 寄贈品コーナー「構之内遺跡展」

期間：1997年12月2日から12月27日まで



発掘A地区 上空より

構之内遺跡は平成2年に玉川文化財研究所（代表：戸田哲也）によって調査が行われました。その成果は、調査報告書によって明らかにされましたが、私達が資料を見る機会がありませんでした。昨年、調査された資料が教育委員会に寄贈されましたので、調査成果を見ていただき古代平塚の歴史に思いを馳せていただきたいと思います。

全部を展示することはできませんが、特徴的な土器、灰釉陶器、緑釉陶器、古銭、鉄製品、鏡、墨書土器等を展示します。

見所 東海地方の縄文中期の土器が出土したことです。砂丘の形成時期を考え上で、キーポイントになるとともに、交流を知る上でも重要です。

建物の柱穴から出土した和鏡は土地の神様を鎮めるために埋納されたものです。

当時の最高級の食器である緑釉陶器が多く出土したことは相模国府の所在地を暗示する資料です。

展示はしていませんが、砂丘間凹地で古代の水田址が発見されとも平野の土地利用を考える上で重要です。



縄文時代Ⅰ号土塚出土遺物